

# 愛知県感染症情報

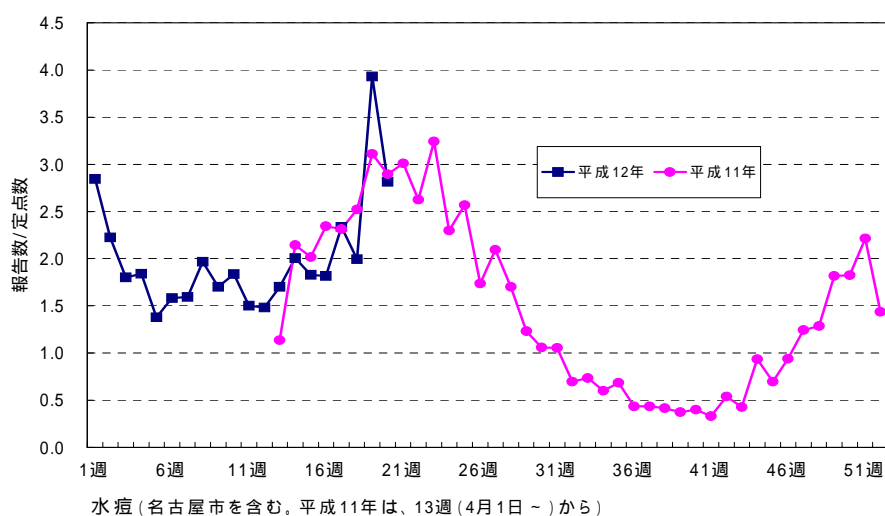
## 平成 12 年第 20 週（5 月第 3 週）

（コメント）

突発性発疹及び伝染性紅斑の散発が見られます。

手足口病及びヘルパンギーナの報告数が増加しています。

水痘の報告数は減少しましたが、流行期ですので、注意をしてくください。



（先生方からのコメント）

### ● 尾張西部地区

- ・ 感染性胃腸炎 35 名中には次の 5 名が含まれます。

病原性大腸菌感染者 0-1 陽性、13 歳女

糞便アデノウィルス抗原陽性者 4 名（7 ヶ月女、1 歳男、2 歳女 2 名）

（尾西市 城後小児科）

### ● 尾張東部地区

- ・ 今週は咽頭結膜熱が 2 名みられました。

（春日井市 かがわ北病院）

- ・ 手足口病少数あり、無菌性髄膜炎 1 名入院

（小牧市 小牧市民病院）

### ● 西三河地区

- ・ 新入園児を中心に水痘増加。手足口病ポツポツ

（豊田市 やふそ小児科）

- ・ カンピロバクター腸炎 6歳女  
病原大腸菌 0-1 2歳女  
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
- ・ 病原性大腸菌 VT(-) 2人 (2歳男、4歳男)  
(岡崎市 医療法人深田小児科)
- ・ カンピロバクター 13歳男  
病原性大腸菌 0-18 VT1、VT2(-) 41歳女  
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ 下痢を伴うカゼ多し  
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ 病原性大腸菌 0-1 VT1(-) 2人 (4歳男、5歳男)  
病原性大腸菌 0-18 VT(-) 13歳女  
(幸田町 とみた小児科)
- ・ サルモネラ腸炎 15歳女。  
(刈谷市 まついこどもクリニック)
- ・ 流行性耳下腺炎が少し増えている印象です。  
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ 溶連菌感染、水痘感染パラパラと  
(知立市 宮谷クリニック)
- ・ 耳下腺炎依然流行  
(西尾市 山岸クリニック)
- ・ ムンプスガ相変わらず流行しています。単純ヘルペス感染症2例。  
(西尾市 やすい小児科)
- 東三河地区
  - ・ 溶連菌増えています。  
(豊橋市 富田小児科)
  - ・ 軽症の胃腸炎が小学生を中心に流行しています。  
(豊橋市 大谷小児科)
  - ・ ムンプス例にて、高熱つづき入院となる。水痘、伝染性紅斑、溶連菌感染が、散発しています。  
(田原町 かわせ小児科)

( 1 ~ 3 類感染症の発生状況 )

細菌性赤痢患者 1 名。

豊田市保健所から報告の 36 歳男、5/12 発病、5/13 初診、5/17 診定。  
菌型はゾンネ。タイ渡航歴あり。

腸管出血性大腸菌感染症患者 2 名

瀬戸保健所から報告の 6 歳女 5/7 発病、5/9 初診、5/15 診定。菌型  
は、0-26 VT1(+).

豊橋市保健所から報告の 2 歳男 5/12 発病、5/14 初診、5/17 診定。菌  
型は、0-157 VT1、VT2(+).

( 全数把握の 4 類感染症の発生状況 )

発生はありません

第 17 週及び 18 週 ( 4 月 24 日 ~ 5 月 7 日 ) の 4 類感染症の全国状況

第 17 週について... A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎の定  
点当たり報告数が例年の同時期よりかなり多く、過去 10 年間で最大の  
流行曲線を描いている。患者の年齢階級別で見ると、A 群溶血性レン  
サ球菌咽頭炎は、3 歳から 7 歳の小児が全体の約 7 割を占め、ピーク  
は 4 ~ 6 歳にある。感染性胃腸炎は 1 ~ 4 歳の小児が全体の約半数  
を占め、ピークは 1 歳にある。水痘も例年の同時期に比べ、定点当  
たり報告数が多い。手足口病の報告数は全国的にはまだ少ないが、熊本  
県で今週定点当たり報告数が 4.6 と多くなっている。麻疹は大阪府、  
千葉県で大きな流行が見られ、兵庫県、茨城県、香川県、埼玉県、和  
歌山県、栃木県、滋賀県、岩手県、岐阜県、神奈川県などでも患者報  
告数が多くなっている。

第 18 週について... 第 18 週は平日が 2 日のみで、咽頭結膜熱、水痘、  
急性出血性結膜炎以外の疾患では報告数が前週よりも極端に少なく  
なったものもあり、これらの疾患の時系列での評価は難しい。水痘は  
石川県で定点当たり 4.3 、手足口病は熊本県で定点当たり 4.5 、流行  
性角結膜炎は高知県で定点当たり 3.7 、茨城県で 3.4 など報告数が多  
くなっている。

( Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供 )

公園の緑が濃くなって賑やかな遠足の幼稚園児の黄色い帽子が目立つ昨今です。お弁当に何を持ってきたか覗いて見たいような気がします。いつも貴重な情報を有難うございます。5月前半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：減少はいたしました但し地区によってはロタウイルス陽性例を含むウイルス性の下痢症が相変わらず発生中で脱水による要入院例も目立っています（第一日赤有吉先生、千種区今枝先生、大同病院水野先生）。気道感染症ではRSウイルスによる喘息性気管支炎、仮性クル-ブ、ウイルス性の気管支炎・肺炎が目立っています（三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、大同病院水野先生）。溶連菌感染症（名東区高橋先生、三菱病院岩間先生、大同病院水野先生）、風疹や水痘、突発疹などが各地区で散発（千種区今枝先生、名東区高橋先生、三菱病院岩間先生、大同病院水野先生）中で中京病院柴田先生からは喉頭蓋炎で挿管例ありとのお手紙をいただき、三菱病院岩間先生からは川崎病、国立病院松下先生からはヘルパンギ-ナ、千種区今枝先生からは猩紅熱の報告もいただきました。注目したいのは相変わらず麻疹（年長児、要入院例）が発生中で、ワクチン接種率増加の努力を今後もしたいと思います（第一日赤有吉先生、第二日赤岩佐先生）。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎と水痘が散発中、津島市民病院長田先生からはロタウイルス腸炎は減少し水痘が増加、麻疹1例あり、江南市からはロタウイルスの下痢症がまだ発生中で、CRP陽性の原因不明の発熱性疾患の入院例あり、溶連菌感染症やマイコプラズマ感染症を含む肺炎（昭和病院丸地先生、愛北病院水谷先生）の報告をいただき、常滑市民病院肥田先生からは水痘の小流行以外には目立った感染症はなかったとのお手紙でした。

3. 三河地区：岡崎市民病院糸洲先生からは水痘が散発中で他に目立つ感染症なし、知立市近藤先生からは水痘がやや多く（ワクチン歴ある児で発病1例）、カンピロバクタ腸炎1例、伝染性紅斑2例、刈谷市田和先生からは感染性胃腸炎（軽症だが少し目立つ）、水痘とムンプスがぼつぼつあり、溶連菌感染症散発中（咽頭所見は特徴的だが発熱は37台で迅速試験（±）という溶連菌感染症として治療すべきか迷う例あり、碧南市永井先生からは水痘と溶連菌感染症が増加中でムンプスと伝染性紅斑が散発中、豊橋市宮澤先生からは伝染性紅斑と水痘が目立つとのお手紙をいただきました。有難うございました。

（文責 磯村）

：